

# 周年放牧黒毛和種生産子牛の吸乳期発育に及ぼす要因

花 田 博 之

## 緒 言

周年放牧で生産される子牛の発育では吸乳期での発育が重要である。入来牧場産子牛の吸乳期の発育については、1995年の技術発表会（第4号，1996）で、季節の影響が大きいことを明らかにした。

本研究では周年放牧で生産される子牛の吸乳期の発育（DG）に及ぼす諸要因（性別，生産年次，季節および生時体重との関係）を1995年までのデータを加えて検討し，入来牧場での周年放牧での吸乳期子牛の管理技術向上の動向を明らかにしようとした。

## 材料と方法

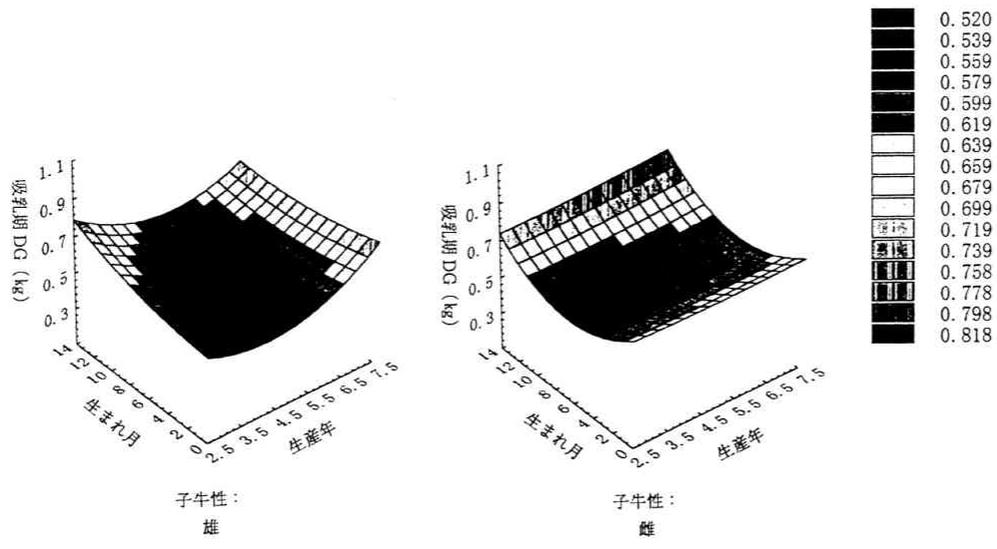
1991年11月から1995年12月までの間に入来牧場で周年放牧によって生産された子牛489頭の吸乳期のDGについて，性別に，分娩年度と生まれた月の影響を検討した。更に，生時体重に対する離乳時体重，吸乳期DGおよび離乳日齢の関係，吸乳期DGに対する離乳時体重の関係について検討した。

## 結果と考察

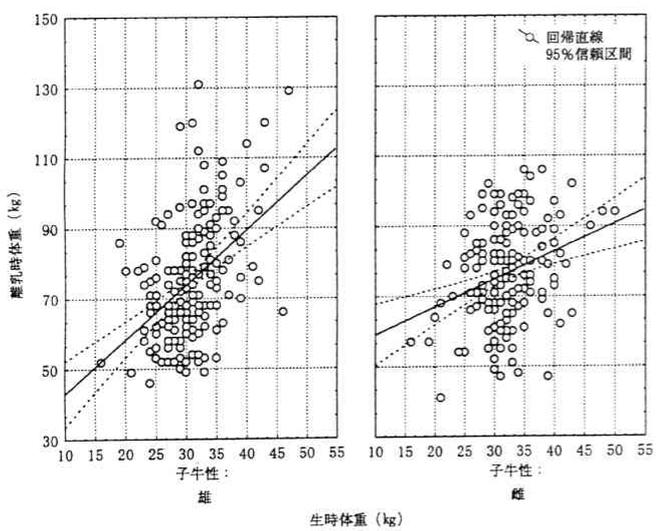
吸乳期子牛のDGに及ぼす分娩年度と月の影響をみると，雄子牛では秋季から初冬にかけては高く，春季から夏季においては低い傾向を示したが，近年では年間を通して高くなる傾向を示した。雌子牛では生産年が進むにつれて高くなり改善されているが，依然として夏季は低い傾向を示した（第1図）。生時体重と離乳時体重との関係は，雄雌とも生時体重が大きいほど離乳時体重は大きくなり，有意な相関が認められたが，雌での相関係数は小さかった（第2図）。生時体重と吸乳期DGの関係は，雄で生時体重が大きいほど吸乳期DGも高く，有意な相関が認められた。しかし，雌では有意差は認められなかった（第3図）。吸乳期DGと離乳時体重の関係は，吸乳期のDGが高いと離乳時体重も大きくなり，雄雌とも有意な相関が認められた（第4図）。生時体重と離乳日齢の関係は，雌では生時体重が小さいと離乳日齢が長くなり，負の相関が認められた。雄では有意差は認められなかった（第5図）。

## 摘 要

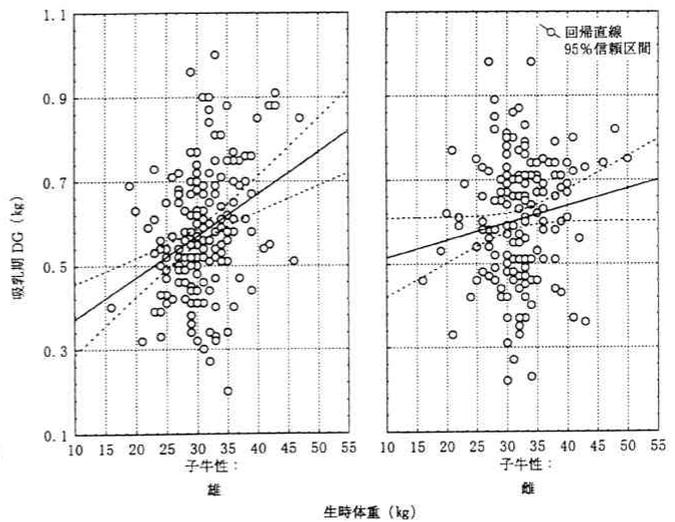
離乳時体重は生時体重と吸乳期DGが大きく影響しており，生時体重を大きくし，特に，夏季における子牛のDGを高める技術開発が不可欠であると考えられた。



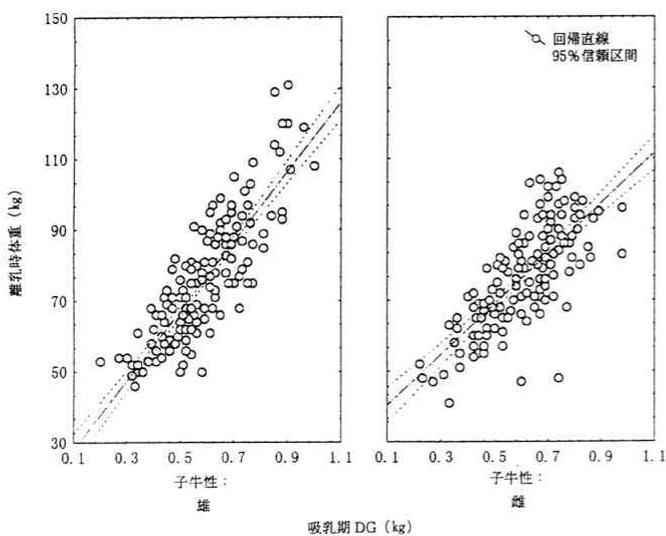
第1図 周年放牧による黒毛和種吸乳期子牛のDGに及ぼす分娩年度および月の影響。



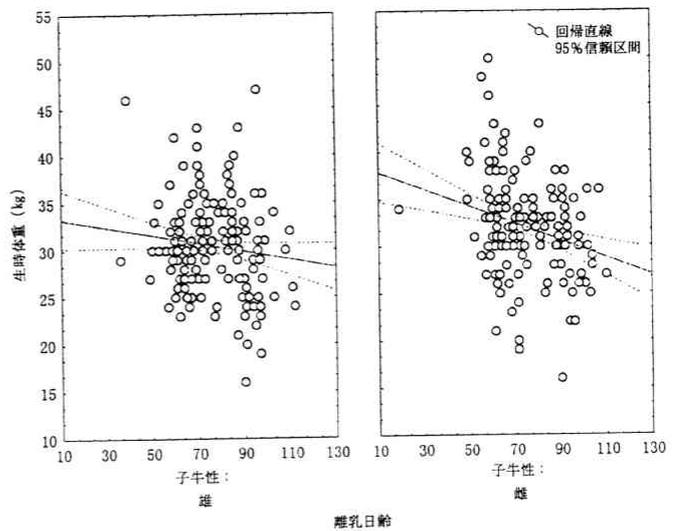
第2図 周年放牧による黒毛和種子牛の生時体重と離乳時体重との関係。



第3図 周年放牧による黒毛和種吸乳期子牛の生時体重とDGとの関係。



第4図 周年放牧による黒毛和種子牛の吸乳期と離乳時体重との関係。



第5図 周年放牧による黒毛和種子牛の生時体重と離乳日齢との関係。